



1. 適正な施肥

●品種特性を踏まえた肥培管理

「おいでまい」の品種特性①：分げつ旺盛

→多肥栽培では過剰分げつ・葉いもちの発生助長

生育状況や地力、気象に応じて穂肥調整が可能な基肥＋穂肥の分施肥体系がおすすめ！

「栽培しおり」施肥基準を参考に適正施肥を心掛けましょう（いもち病常発地では、地力に応じて減肥）

「おいでまい」の品種特性②：生育期間を通じて葉色がやや淡い

→過剰施肥に注意しましょう！

2. ジャンボタニシ対策

●水管理による対策

ジャンボタニシの多発ほ場では、可能な限り水深を浅く（4cm以下 理想1cm）保ちましょう。

食害は、田植後3週間頃（稲が固くなる5葉期頃）までの期間に集中するため、浅水管理によりジャンボタニシの活動を阻害しましょう！

●薬剤防除のコツ

①散布の タイミング	ジャンボタニシの活動を <u>確認後</u> 、 <u>散布</u> 薬剤効果：誘引性があり <u>食害した個体</u> に即 効的に作用（有効成分による食毒）
②使用量	発生量により加減（「栽培しおり」を参照）
③水深	湛水深3～5cm
④散布範囲	水口や水深の深いところ（ジャンボタニシが多 く集まる箇所）に <u>重点的に散布</u>

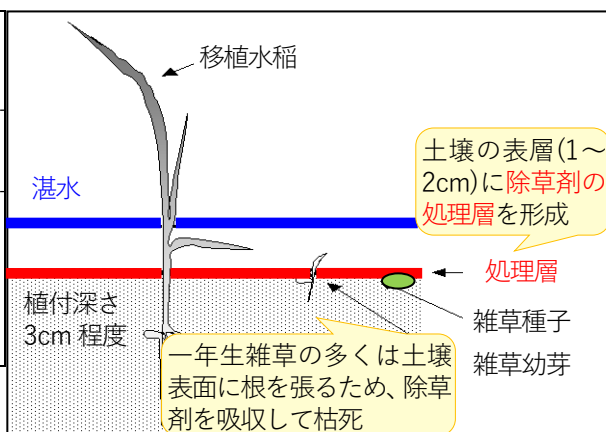
注意点：落水やかけ流しをしない！
水田以外では使用しない！



3. 初期除草剤

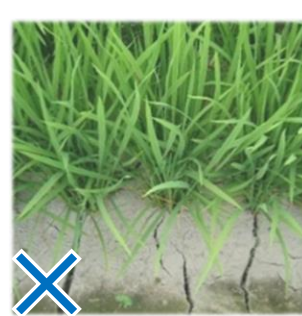
●初期除草剤（移植直後～）の注意点

①散布の タイミング	強風時は散布を控える （吹寄せ等で効果にムラや薬害の恐れ）
②剤系の選択	藻類等が田面を覆っている場合、 <u>拡散しやすい粒剤タイプ</u> を使用
③効果安定化 のポイント	均平な代かきと <u>適正な湛水期間</u> （散布後3～4日 間、水深3～5cm）を確保 <u>注意点：散布後2週間</u> は <u>処理層を壊さないよ</u> <u>う</u> 水管理に留意



4. 適正な水管理

水管理を徹底し、適正な籾数で粒張りの良いお米に仕上げましょう！

湛水		田干し 間断灌水 (田植15日後頃～)	中干し 間断灌水 (田植30日後頃～)	間断灌水	湛 水 (出穂期前後2週間)	間断灌水	落水
							
田植 6/20	有効分げつ期 7/5	無効分げつ期 7/20	幼穂形成期 7/30	穂ばらみ期 8/17	出穂期 8/27	乳熟期 9/7	成熟期 10/7
時 期	水管理		目的				
田植後2週間頃	田干し (亀裂幅3～5mm)		根の健全化を図るガス抜き ●ワキ(ガス発生)抑制 ●土壌への酸素供給 ●根の回復・活性化				
							
田植後2週間頃 ～田植後1ヶ月	浅水管理による 間断灌水		分げつの確保 ●水温の日較差を生じさせ、分げつの発生促進				
田植後1ヶ月～ 出穂28日前頃	中干し (黒湿り 亀裂幅1cm未満)		過剰分げつの抑制 ●茎数20～30本/株で開始 ●土壌への酸素供給 ●過繁茂抑制 注意：大きなひび割れは根を切断し生育抑制 <適正な中干しの例>				
							

5. 中期除草剤

時期を逃さず草種に応じた除草剤を選択しましょう！

草種	薬剤名	備考
ノビエ・キシウスズメノヒエ	(粒 剤) クリンチャー 1 キロ粒剤	使用時期や散布方法等、 使用上の注意事項をよく読んで適期・適正に散布 しましょう。
ノビエ	(パ ック剤) セカンドショットSジャンボMX	
ホタルイ・広葉雑草等	(粒 剤) ツイゲキ豆つぶ250 (液 剤) クリンチャーバスME液剤(注)	
ホタルイ・広葉雑草等	(粒 剤) バサグラン粒剤(注)	

(注) 薬剤(※)の散布は、足跡に水が残る程度の落水状態で、散布後3日間は入水しないようにしましょう。

散布後降雨があると効果が減衰するため、晴天が続く日に行いましょう。

マイスターチェック

- ☐ 品種特性に即した肥培管理をしている！
- ☐ 水管理は間断灌水を基本としている！

- ☐ 草種に応じた除草剤を選択し、時期を逃さず散布している！



熱中症に注意して農作業に取り組みましょう！